

教科書検討の観点からみた特色

1. 教育基本法及び学校教育法との関連

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
教育基本法第二条【第一号】幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	表現や鑑賞の全活動において、美しいものや優れたものに触れ、豊かな情操と道徳心を養うことのできる題材が掲載されている。また、生徒作品・作家作品や、発想や構想の手助けとなる活動的な情景写真を取り入れ、健やかな身体を養うことにも配慮されている。	全教材を通して
	表現活動をする上で基礎・基本となる、技法や安全指導、美術や美術館への関心を高める資料、作家のあらゆる作品や、さまざまなアートイベントを紹介する鑑賞資料を通して、幅広い知識や教養、個々の能力を伸ばし自主自立の精神を養うこと、伝統と文化を尊重することなどの態度を養うことができるように配慮されている。	各巻の「学びを支える資料」 (1p.58-75／2・3上p.50-65／2・3下p.48-57)
	一人一人の個性を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培うことができるような巻頭オリエンテーションを設定。美術1巻頭オリエンテーションでは、スタジオジブリ「となりのトトロ」の図版と、松任谷由実さん(シンガーソングライター)の言葉を掲載し、 美術との出会いの大切さ を共有するページが設けられている。美術2・3上では、ゴッホやモネの原寸大図版と岡本太郎さん(芸術家)の言葉、美術2・3下ではサグラダ・ファミリアの図版と井浦新さん(俳優)の言葉がそれぞれ掲載されていて、 成長に応じた美術の学び を共有できるページが設定されている。	各巻の巻頭オリエンテーション (1,2・3上,2・3下p.2-5)
	中学校3年間の美術の学びの取り組みを、生徒自身が見通しを持って捉えられるように配慮し、自ら進んで意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。	1p.6-7「中学校美術の世界へようこそ」
	「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」では、教科書で学ぶ生徒へ向けたメッセージを掲げ、美術で何を学ぶのが伝えられている。また、 授業や学習のしやすさ を考えた紙面の説明が、目次一覧とともに掲載されている。	各巻の「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」 (1,2・3上p.8-9／2・3下p.6-7)
	2年生からの美術の学びを、より実感的に深めていくため「あなたの美を見つけて」が設定されている。 個々の個性を尊重し、自ら進んで意欲的に学習に取り組む ことができるように工夫されている。	2・3上p.6-7「あなたの美を見つけて」
	ノーベル賞受賞者の大村智さんをはじめ、料理家や研究者など、美術に直接携わる仕事ではない方を紹介し、美術の学びがこれからの 人生や生活に大きく関わってくる力 になることが分かりやすく示されている。	2・3下p.58-59「社会に生きる美術の力」
	卒業を控えた3年生に向けたメッセージが掲載されている。3年間の美術の学びで得た、幅広い知識や教養、培った豊かな情操を改めて意識させて、 これからの生活にも役立てられる ように配慮されている。	2・3下p.60-61「あなたへ 明日への巣立ち」
【第二号】個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	つくることを職業としている人の活動を紹介するページが設けられ、造形や美術と 職業との関連 が示されている。また、題材ページや特設ページにおいて、工芸品や、家庭で生徒の作品を飾っている様子、生活の中で出会う造形などが掲載され、造形や美術が 生活と関連 していることが示されている。	【職業との関連】 (1p.58-59／2・3上p.32-33／2・3下p.46-47／p.58-59) 【生活との関連】 (1p.40-41／p.42-43／p.46-47／p.50-51／p.52-53／p.70-72／p.73／2・3上p.32-33／p.34-35／p.38-39／p.42-43／p.44-45／p.52-53／2・3下p.36-37／p.40-41／p.42-43)
	協力して行うことで、満足感や達成感を得られるような題材が設定されている。	全教材を通して
	互いの作品や活動について話し合い、それぞれの 違いやよさを認め合う 様子が多く掲載されている。	全教材を通して
【第三号】正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	主体的に 社会に参画 する態度を養うために、掲載作品や題材設定が配慮されている。	1p.74-75「美術館へ行こう」 2・3上p.38-39「ひと目で伝えるための工夫」 2・3上p.40-41「その一枚が人を動かす」 2・3上p.44-45「暮らしやすさのデザイン」 2・3上p.46-47「デザインで人生を豊かに」 2・3下p.32-33「どこまで修復すべきか」 2・3下p.44-45「人が生きる社会と未来」

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
【第四号】生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	自然や環境を意識した題材を設定し、 自然や環境 の大切さ、 生命 への尊重について深く考えられるように工夫されている。	1p.20-21「材料に命を吹き込む」 1p.50-51「暮らしの中の木の工芸」 1p.54-55「自然の美しさから生まれた」 2・3上p.14-15「動き出しそうな動物たち」 2・3上p.34-35「季節を楽しむ心」 2・3上p.48-49「憩いを生み出す場所」 2・3下p.36-37「私の色 みんなの色」
【第五号】伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	日本の 伝統文化 に関わる題材や、伝統工芸、美術作品などが掲載され、実際に表現したり鑑賞したりすることで、そのよさを深く理解できるように工夫されている。また、地域に関わる作品をつくる事例などを掲載し、地域文化や郷土のことを考えながら活動することができるように工夫されている。	【題材】 (1p.22-23／p.28-29／p.32-37／p.44-45／p.46-47／p.52-53／p.56-57／2・3上p.20-21／p.24-29／p.30-31／p.32-33／p.34-35／2・3下p.30-31／p.32-33／p.36-37) 【学びを支える資料】 (1p.65／2・3上p.52-53／p.58-59／p.60-61／p.65／2・3下p.48-49／p.54)
	諸外国の生徒作品や作家の作品、建築物などを取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、 国際理解 の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	【諸外国の生徒の作品】 (1p.18／2・3下p.10／p.13) 【諸外国の作家の作品など】 全教材を通して 【国際理解や平和の発展に関する事例】 (1p.56-57／2・3上p.30-31／2・3下p.24-29)
学校教育法との関連	学校教育法に示された教育の目的及び目標に則し、題材の設定、作品や写真の選択、文章表現などについて十分配慮されている。	全教材を通して
	特に、学校教育法第三十条第二項に示された「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」について、資質・能力の三つの柱に基づく 「学びの目標」を全題材に設定 するなど重視されている。	全教材を通して

2. 学習指導要領との関連

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
社会に開かれた教育課程との関連	各巻の「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」では、美術科で育む資質・能力について、生徒のみならず、保護者や教科書を見る 全ての人たちと共有 できる工夫がされている。また、オリエンテーションにおいて、アーティストやデザイナー、著名人を取り上げることで、美術が社会や生活の中で生かされていることが示されている。	各巻の「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」 (1,2・3上p.8-9／2・3下p.6-7) 各巻の巻頭オリエンテーション (1,2・3上,2・3下p.2-5) 2・3下p.58-59「社会に生きる美術の力」
	社会問題や、地域文化などを取り上げており、 美術の学習が社会とつながっている ことが示されている。	【社会との関わりを示す事例】 (1p.74-75／2・3上p.38-39／p.40-41／p.44-45／p.46-47／2・3下p.32-33／p.44-45)
	家庭に作品を持ち帰って使ったり、地域の施設などの展示を通して、学校での学びを地域の方に伝えたりする事例や、地域の方と協働して活動する事例が多数掲載され、美術科における 社会との連携 が例示されている。	【家庭で作品などを使う事例】 (1p.40-41／p.46-47／p.52-53／2・3上p.34-35／2・3下p.36-37／p.42-43) 【地域と関わる活動の事例】 (1p.44-45／2・3上p.36-37／2・3下p.14-15／p.40-41／p.50-51)
教育の目標との関連	全ての題材において、表現と鑑賞が一体的に学習できるような配慮がされている。題材は、学習指導要領を基に「表現」及び「鑑賞」領域のもと「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」の3つの分野に分けて示されている。表現の題材においても、鑑賞活動が一体化されており、 「中心となる考え方」 が示されている。	全教材を通して
	全ての題材において、学習指導要領で示された目標に基づき 「学びの目標」 を設定し、 資質・能力の三つの柱の育成 が実現できるように工夫されている。	全教材を通して
	「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」 を育成するために、ページレイアウトを工夫したり、特設ページや資料ページを設けたりして、学習を支えている。	全教材を通して

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
資質・能力の三つの柱との関連	知識及び技能との関連	生徒が対象や事象を捉える【造形的な視点】について理解が深まるように、題材の主文において、造形的な捉え方ができる文言が工夫されている。
		また「内容の取扱い(3)〔共通事項〕のアの指導」に示された知識に関する指導事項に基づき、第1学年、第2学年及び第3学年と経験を重ねていけるよう、題材が配置されている。同様に、発達の段階に応じたテーマで鑑賞できるオリエンテーションや特設ページが設けられている。
		題材ページに〔共通事項〕(知識)への意識を促す【造形的な視点】を設定し、掲載作品から感じたこと、気付いたことを意識させ、活動と知識が結び付けられる工夫がされている。
		技能の基礎を支え、生徒が自分の思いを基に活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて【学びを支える資料】として各巻末にまとめ、写真やイラスト、教科書QRコンテンツで丁寧に説明されている。
	思考力,判断力,表現力等との関連	表現題材においては、発想や構想と鑑賞の双方で働く「中心となる考え」を明確に示し、鑑賞したことが発想し構想を練る時に生かされ、また発想し構想をしたことが鑑賞において生かされるように工夫されている。
		題材ページでは、生徒の発想や構想の手掛かりとして、掲載作品の作者の言葉を多数掲載し、その思いに触れて生徒がより自分の発想や構想を広げ深めることができるように配慮されている。さらに、発想や構想のヒントとして、情景写真、アイデアスケッチやワークシートなども掲載されている。
		生徒が作品や友人の活動などに対して、よさや美しさを感じ取ったり考えたりできるように、題材ページに鑑賞活動を促すような情景写真が掲載されている。
		美術1の巻末資料では、発想や構想の手立てを示したページを設定している。アーティストの鈴木康広さんの活動を紹介して、生徒の活動のヒントが示されている。
	学びに向かう力,人間性等との関連	学習指導要領の趣旨を踏まえ、学びに向かう力、人間性等のうち主体的に学習に取り組む態度については【学びの目標】において分かりやすい言葉で示され、生徒が主体的に学ぶことができるように工夫されている。
		学びに向かう力、人間性等のうち、感性や思いやりなど観点別評価になじまない部分については、主文などにおいて、活動が終わった後においても、学びを人生や社会に生かすことができるような例示がされている。
		2・3下巻の特設ページでは、ノーベル賞受賞者の大村智さんをはじめ、料理家や研究者など、美術に直接携わる仕事ではない人を紹介し、美術の学びがこれからの人生や生活に大きく関わってくる力になることを分かりやすく示されている。また、卒業を控えた3年生に向けたメッセージを掲載し、3年間の美術の学びで得た、幅広い知識や教養、培った豊かな情操を改めて意識させて、これからの生活にも役立てられるような工夫がされている。
主体的・対話的で深い学びとの関連	主体的な学びとの関連	「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」において、美術の学びに向かう生徒に対するメッセージを掲げ、美術で何を学ぶのかを伝えて、生徒が自分の活動を振り返り、意欲や興味・関心が持続できる工夫がされている。
		また、題材ページの見方や使い方を説明し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように配慮されている。
		題材は、多様な生徒が興味・関心を持つことができるように、さまざまな発想のきっかけから活動に取り組めるものになっている。
		実際の授業を撮影した情景写真が多く用いられ、生徒が親近感をもち、写真の豊かな表情に触発されながら、活動に興味・関心を持つことができるように工夫されている。また、生徒が理解しやすい題材名や主文、図版のサイズにめりはりをもたせた構成などによって、より興味・関心を持って活動ができるよう紙面作成されている。
		学びの目標を各題材の入口部分に示すことで、生徒が見通しを持って活動できるように工夫されている。
		美術1においては「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」それぞれの分野において、導入ページを設定している。生徒がこれから取り組む活動内容を把握し、見通しを持って取り組める工夫をしている。

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
主体的・対話的で深い学びとの関連	対話的な学びとの関連	生徒が考えを伝え合ったり、友人と相談したりしながら協働して造形活動を行う様子が紹介され、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるように工夫されている。
		教科書全般を通して、美術での学びを生かしている人々の言葉を掲載したり、伝統工芸に携わる人の話を掲載したり、アーティストの考え方を掲載したりするなど、多様な考え方を手掛かりに考えることを促す工夫がされている。
	深い学びとの関連	生徒が造形的な見方・考え方を働かせて、自ら主題を生み出せるように、題材の設定が十分に配慮されている。
		オリエンテーションでは、造形的な見方・考え方が分かりやすい言葉で示されている。
他教科との関連		題材ページに設定された【造形的な視点】は、その題材における中心的な発問となっていて、何を考えさせたいか、気付かせたいのかを示されている。生徒の思考が深められ、主体的な学びへの入口ともなっている。
		他教科での学習を生かしたり、関連付けたりした題材や事例を掲載し、教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントができるように配慮されている。
		【国語科】 (1p.42-43／2・3上p.65／2・3下p.32-33) 【数学科】 (1p.40-41／p.62) 【理科】 (1p.54-55／p.68-69) 【社会科】 (1p.28-29／2・3上p.24-29／p.60-63／2・3下p.22-23／p.30-31／p.44-45) 【音楽科】 (1p.5／2・3下p.14-15) ※内容解説資料p.34-35も参照ください。
		総合的な学習の時間や特別活動(文化祭、進路指導、修学旅行など)と美術科の活動を関連させた事例が多く掲載されている。
特別の教科 道徳との関連		紙面全体を通して、安全への配慮、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす、友人と理解し合う、父母や祖父母、先生や学校の人々を敬愛する、美しいものに感動する心を持つ、郷土の伝統文化を大切にし愛する、わが国の伝統文化を大切にする、などの項目と強く関連している。また、全ての題材は、つくりだす喜びを味わうことができるように配慮され、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものになっている。
		特に道徳と深く関連するページは、道徳マークで示されている。
小学校教育との接続 への配慮		美術1の巻頭オリエンテーションでは、幼児期や小学校との接続を意識し、多くの生徒が慣れ親しんできたと思われる「となりのトトロ」が鑑賞図版として選ばれている。また「中学校美術の世界へようこそ」では、小学校での経験や学びで身に付けたことが中学校でも活用できることが示されている。1年生が入学後に興味を抱きやすく、小学校の経験を活用しやすい題材が、適切な時期に配列されている。
		教科書全体を通して取り扱われている。(1)アの形や色彩などに関する事項については、生徒が自分の感じ方で形や色彩を捉え、造形的な視点を豊かにするために生きて働く知識として実感を伴った理解をして身に付けていけるような工夫がされている。原寸大の表示や、特設ページ、学習を支える資料などの示し方が工夫されている。
		(2)イのイメージに関する事項については、生徒が題材に出会いイメージを膨らませることができるように、各題材の主文が形や色彩からイメージを喚起するような文言になっている。
		【実感を伴った理解の事例】 (1p.32-37／2・3上p.24-29) 【原寸大表示の事例】 (1p.28-29／2・3上p.2-5／2・3上p.24-29／2・3下p.24-29／p.48-49)
言語活動の充実への配慮		題材ページに〔共通事項〕(知識)への意識を促す【造形的な視点】を設定し、掲載作品から感じたこと、気付いたことを意識させ、活動と知識が結び付けられる工夫がされている。
		紙面全体を通して、発想や構想、鑑賞などさまざまな場面で生徒がコミュニケーションを取りながら造形活動を行う様子が紹介されている。
		掲載作品の【作者の言葉】やアイデアスケッチを紹介し、形や色彩・言葉で思いを伝え合う活動を促している。

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
情報機器の利用について	タブレットコンピューターやカメラ機能を使って表現や鑑賞している様子が掲載され、 情報機器の活用例 が示されている。また、「学びを支える資料」では、写真の撮影方法や動画のつくり方について説明されている。	【題材において】 (1p.16-17／2・3上p.10-11／p.18-19／p.36-37／p.40-41／2・3下p.14-15／p.38-39／p.40-41／p.44-45) 【学びを支える資料】 (2・3上p.55／2・3下p.57)
情報活用能力の育成について	情報モラルについて撮影する際の注意が示されている。また 肖像権や著作権 についても示されている。	2・3下p.40-41「動きを生かして印象的に」 2・3下p.57「動画をつくる」
知的財産権や肖像権への配慮	各巻の「この教科書で学ばみなさんへ・目次」において「作品について注意しよう」が示されるなど、作品の 著作権など知的財産権 についての注意や、撮影における肖像権の注意が喚起されている。	各巻の「この教科書で学ばみなさんへ・目次」 (1,2・3上p.8-9／2・3下p.6-7) 2・3下p.57「動画をつくる」
プログラミング教育への配慮	主に発想や構想の手立てのページにおけるアイデア出しから作品完成までのプロセスや、デザインや工芸の題材ページにおける制作のプロセスなど、 プログラミング的思考 に関連する内容が示されている。	1p.58-59「発想・構想の手立て／鈴木康広」 2・3上p.40-41「その一枚が人を動かす」 2・3下p.38-39「魅力を伝えるパッケージ」 2・3下p.44-45「人が生きる社会と未来」
教科書QRコンテンツについて	全教材を通じて、適宜 QRコード を設定し、 生徒が主体的にQRコンテンツを活用できる 工夫がされている。 また、教科書以外にも、学習者用デジタル教科書や、教師用指導書同梱の指導者用デジタル教材を別途提供する体制が整えられている。	内容解説資料p.29を参照ください。
環境教育への配慮	自然材や、再利用できる材料を使用する題材を設定し、 環境問題 への関心を高める工夫がされている。	全教材を通して
	環境や安全について考えながら未来の町をつくる題材が掲載され、 環境問題 への関心を高められるように配慮されている。	2・3上p.48-49「憩いを生み出す場所」 2・3下p.44-45「人が生きる社会と未来」
キャリア教育との関連	学びを振り返り、人生にどう生かすか考えることができるページや、アーティストのインタビューなどが設定され、 学びと将来とのつながりについて考えられる ように配慮されている。	2・3下p.46-47「笑顔が生まれる鉄道デザイン」 2・3下p.58-59「社会に生きる美術の力」
人権尊重の視点	家族や高齢者、地域の方、障がいのある人たちなどに対して、日頃から優しい気持ちで向き合い、思いやりを持てるように、題材を通して、心豊かで、慈愛のある人間性が育まれるように配慮されている。	1p.18-19「人間っておもしろい」 2・3上p.44-45「暮らしやすさのデザイン」
	美術科の活動を通して、身近な地域、社会とつながる活動を紹介することで、 人との触れ合いや共生 を通して造形表現を深めていくことができるように工夫されている。	1p.44-45「印象に残るシンボルマーク」 1p.56-57「祭りを彩る造形」 2・3上p.36-37「ジジチカピカ ポッポッパッ」 2・3上p.38-39「ひと目で伝えるための工夫」 2・3下p.44-45「人が生きる社会と未来」
	あらゆる立場の作家や活動を紹介し、人との触れ合いや共生への意識を高める工夫がされている。	全教材を通して
	題材や資料ページにおいて、 平和や人権 に関わる作家作品やポスターなどが取り上げられている。	2・3上p.40-41「その一枚が人を動かす」 2・3上p.46-47「デザインで人生を豊かに」 2・3下.24-29「あの日を忘れない」
	作品の掲載においては、外国の生徒や作家作品、アール・ブリュットの作品などが取り上げられていて、教科書全体を通して 多様性 を尊重しながら学ぶことができるように工夫されている。	【諸外国の生徒の作品】 (1p.18／2・3下p.10／p.13) 【諸外国の作家の作品など】 全教材を通して 【アール・ブリュット作品】 (2・3下p.50-51)
伝統文化・地域文化に関して	題材や資料において、 伝統工芸 や 伝統文化 に関わる作品が多く取り上げられている。 地域文化 について考えながら活動している事例が紹介されている。 また、 アイヌや沖縄の文化 なども取り上げ、日本の伝統文化の多様性が示されている。	【題材】 (1p.22-23／p.28-29／p.32-37／p.44-45／p.46-47／p.52-53／p.56-57／2・3上p.20-21／p.24-29／p.30-31／p.32-33／p.34-35／2・3下p.30-31／p.32-33／p.36-37) 【学びを支える資料】 (1p.65／2・3上p.52-53／p.58-59／p.60-61／p.65／2・3下p.48-49／p.54)

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
防災・安全に関して	教科書全てにおいて、用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認することなどが必要な場面において喚起するマークが設定されていて、 安全に配慮する態度 を養うことができるように工夫されている。	全教材を通して
	防災研究の専門家である 河田恵昭先生（関西大学 特別任命教授） 、 片田敏孝先生（東京大学大学院情報学環 特任教授） による全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
	防災・安全について、防災看板のビクトグラムや、震災からの復興を願った展示の様子などが掲載され、防災への考えを深められるように配慮されている。	1p.74-75「美術館へ行こう」 2・3上p.38-39「ひと目で伝えるための工夫」
特別支援教育への配慮	色覚特性の有無に関わらず、全ての生徒が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、 カラーユニバーサルデザイン に配慮して編集されている。題材の分野を示すアイコンは、誰もが見やすく見分けやすい配色によるデザインで作成されている。	全教材を通して
	誰にとっても読みやすいように、文字は読みやすさを重視したフォントが選ばれており、行間や文字色、背景色とのコントラスト等にも配慮されている。	全教材を通して
	特別支援教育の専門家である 大内進先生（国立特別支援教育総合研究所名誉所員・特任研究員） による、全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
	多様な表現を認められるように、参考作品における支持体の大きさ、形、素材はさまざまなものが取り上げられている。また、障がいの有無に関わらず生徒が題材に主体的に取り組めるように、さまざまな発想のきっかけを持つ題材が設定されている。また、一つの題材の中でいくつかの実践パターンが示され、 生徒の実態に応じて 材料の種類や数を絞るなど実践方法を変えられるように配慮されている。 また、教科書とは別に、18,22,26ポイントと文字の大きさを変えた、三種類の 拡大教科書 を制作したり、文字の拡大や音声の読み上げなど、 学習支援のための機能を備えた学習者用デジタル教科書 を制作したりする体制が整えられている。	全教材を通して
	手で触って作品を鑑賞する美術館の事例が掲載され、触覚で鑑賞する方法が提案されている。	2・3下p.50-51「さまざまなアートに触れよう」
国際理解教育への配慮	諸外国の生徒の作品や作家の作品、建築物などを取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、 国際理解 の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	【諸外国の生徒の作品】 (1p.18／2・3下p.10／p.13) 【諸外国の作家の作品など】 全教材を通して
持続可能な社会に関して(ESD)	生徒が、持続可能な社会のつくり手として、 現代的な諸課題 について美術科との関わりを通して考えを深められるよう、環境、伝統文化・地域文化、多文化共生、国際理解、平和・人権、防災・安全に関わる題材や事例が取り上げられている。	2・3上p.38-39「ひと目で伝えるための工夫」 2・3上p.40-41「その一枚が人を動かす」 2・3上p.44-45「暮らしやすさのデザイン」 2・3上p.46-47「デザインで人生を豊かに」 2・3下p.14-15「仲間との交流の中から」 2・3下.24-29「あの日を忘れない」 2・3下p.36-37「私の色 みんなの色」
	形と色彩で象徴的に表現したポスターのデザイン例として 持続可能な開発目標（SDGs） を取り上げていて、多文化共生について考えながら学べるように配慮されている。	2・3上p.40-41「その一枚が人を動かす」

3. 構成・配列

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
題材の系統性への配慮	中学校3年間の生徒の発達について、授業の取材や全国各地の実践報告を基に研究し、 発達の段階に応じて 学びを深められるよう、系統性に配慮して配列されている。 題材の分類は「表現」および「鑑賞」領域のもと「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」の分野で構成され、それぞれの分野の中で、生徒の発達に十分配慮した材料や用具が取り扱われている。	全教材を通して
内容の配列や学年の順序性の工夫	発達の段階に応じた学びを重視し、 1年生、2年生、3年生それぞれの成長を後押しする美術の学び が設定されている。美術1では新しい見方や感じ方との出会いを大切にし、美術の楽しさを感じられるように工夫されている。美術2・3上では、試行錯誤を繰り返していくことで知的理解が深まり、美術の学びを実感できることが重視されている。美術2・3下では、さらに自己を掘り下げて考えていく題材が設定され、進路や将来を見据えて、自分らしい価値観が形成されることで未来へとつながるように配慮されている。	全教材を通して
地域性や教員への負担軽減への配慮	学校や地域の実態に合わせて活動できるように、同一題材内で、 短時間で活動できる題材 も紹介されている。また、地域の実態によって入手可能な材料が違うことに配慮し、さまざまな材料での実践が同一題材内で紹介されている。	全教材を通して
	地域や学校の実態、生徒の状況に合わせて題材を選択できるよう、豊富な題材が掲載されている。	全教材を通して
	美術科の学習が、身近な話題と結び付いていることを意識できるよう、 2020東京オリンピック・パラリンピックのエンブレム が、シンボルマークの作品例として取り上げられている。また、パラリンピックの選手が使用する競技用の車いすが問題解決のデザインの作品例として掲載されている。	1p.44-45「印象に残るシンボルマーク」 2・3上p.46-47「デザインで人生を豊かに」
	全都道府県のさまざまな造形活動や美術館の取り組み、伝統工芸、美術作品などが掲載され、生徒が自分たちの住む地域や全国の地域に関心を持ったり、活動の参考にしたりにできるように配慮されている。	※内容解説資料p.52-55を参照ください。
カラーユニバーサルデザインへの配慮	色覚特性の有無に関わらず、全ての生徒が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、 カラーユニバーサルデザイン に配慮して編集されている。 題材の領域や分野を示すアイコンは、誰もが見やすく見分けやすい配色によるデザインで作成されている。題材名、主文は UDフォント を使用し見やすさが考慮されている。	全教材を通して
	特別支援教育の専門家である 大内進先生(国立特別支援教育総合研究所名誉所員・特任研究員) による、全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して

4. 正確性及び表記・表現

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
文章表現は適切であるか	題材名は、発達の段階に考慮しつつ、生徒の興味・関心を引き出し、イメージを広げることができるよう工夫されている。	全教材を通して
	主文では、生徒が 「造形的な視点」 や中心となる考え方を意識して題材に取り組むことができるように、イメージを広げやすい言葉を選び、工夫されている。	全教材を通して
図版・写真などは学習内容と関連付けられているか	資質・能力の三つの柱 に対応している情景写真が示されている。また制作のプロセスの様子が読み取れるような写真、活動途中や終末での相互鑑賞・プレゼンテーションの様子も掲載されている。 作品図版においても、生徒の発想や構想、工夫が読み取りやすいよう、一部を拡大して掲載するなど、活動の際の参考になるように工夫されている。	全教材を通して
レイアウトは斬新であるか	作品が大きく掲載 されていることはもちろん、活動の 情景が多く掲載 され、活動の入口から出口まで、全ての場面が等しく学びであることを示すようなレイアウトになっている。また、大小のめりはりをつけることで紙面に動きをもたせ、生徒が興味・関心を持つことのできる構成になるように工夫されている。	全教材を通して
つくる過程や図解は明確であるか	仕組みのつくり方などは図示することで分かりやすく、生徒が主体的に活動できるように示されている。また、材料や用具の取り扱いについては巻末にまとめられ、いつでも参照できるように工夫されている。	1p.46-47「折って、切って、巻いて」 各巻の「学びを支える資料」 (1p.58-75／2・3上p.50-65／2・3下p.48-57)

5. 造本

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
大きさ・判型への配慮	A4判正寸よりも横に2cm広いA4ワイド判で、作品や写真を見やすく、インパクトを持たせて掲載し、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。	全巻を通して
印刷の鮮明さ	生徒の作品、美術作品のニュアンスや材質感、色彩などの 忠実な再現 が図られている。用紙は美術科の教科書として、再生紙の中で最適の良質コート紙が使用されている。 また、より実感的に作品を鑑賞するページでは、その他の本文用紙よりも厚手の良質コート紙が使用されている。	全巻を通して 1p.32-37「屏風、美のしかけ」 2・3上p.24-29「浮世絵はすごい」
製本の堅牢さ	製本は、通常の無線綴じよりも丈夫な見返し付きのあじろ綴じで、長期の使用に耐える丈夫な造本にされている。また、表紙は耐水性のあるコーティングを施し(PPフィルム貼り)、水濡れなどに対しても耐久性を高くされている。 使いやすさに配慮 され、かつ長期の使用に耐える堅牢で丈夫な造本にされている。	全巻を通して
装丁の工夫	表紙は美しい光沢と耐水性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れに対しても耐久性がある。表紙に掲載されている作品は、細部が見えるように拡大され、裏表紙には作品の全図と、鑑賞資料として作品解説が掲載されている。	各巻表紙
安全・健康への配慮	植物性インクが使用されているため、従来の印刷に比べ人体への影響が少なく、また化学物質に過敏な生徒のために表紙の表面加工が工夫され、化学物質の残存量を少なくするための努力が行われている。	全巻を通して
環境への配慮	資源保護に配慮され、表紙・本文ともに再生紙が使用されている。印刷においては、植物性インクが使用されている。	全巻を通して
軽量化への取り組み	生徒の体への負担をできるだけ軽減するため、 軽量化した再生紙 の中で最適の良質コート紙が使用されている。	全巻を通して